

新潟地震概報

高橋末雄

国立防災科学技術センター

Outline of the Niigata Earthquake

By M. Takahashi

National Research Center for Disaster Prevention, Tokyo

Abstract

Concerning the Niigata Earthquake, the research items, which have been adopted as items of cooperative study by the National Research Center for Disaster Prevention, are considered in detail in the present number of this publication "Reports of the Niigata Earthquake from the Viewpoint of Disaster Prevention" by the research institutions taking charge of them, respectively. Accordingly, an outline of the Earthquake is given here by summarizing on the basis of the data published by the Japan Meteorological Agency and the Earthquake Research Institute of the University of Tokyo.

1964年(昭和39年)6月16日に、日本海に起った、いわゆる新潟地震は、新潟市をはじめ、震源に近い日本海沿岸地域に多大な被害をあたえた。この地震は、最近日本において余り大きな地震のなかったこと、また新潟市において、地盤沈下、油タンク火災など特異な災害をもたらしたことなどから、学界を始め、広く一般に大きな関心をもたれた。各論において、各研究機関が、それぞれの担当項目について発表されているが、ここでは気象庁、および東京大学地震研究所で発表された資料から、地震の概要について簡単に述べる。

1. 震源事項

新潟県粟島南方沖 北緯 $38^{\circ}21' \pm 00'$ 、東経 $139^{\circ}11' \pm 00'$

震源時 1964年6月16日13時01分39.9秒 ± 0.1 秒

深さ 40km

規模 7.5 ± 0.2 (図-1参照)

2. 観測資料

気象庁官署における、震度、震央からの距離、初動発現時、最大動の振幅とその周期を示したものが表-1である。

震度分布は図-2のようになり、仙台周辺に震度5の

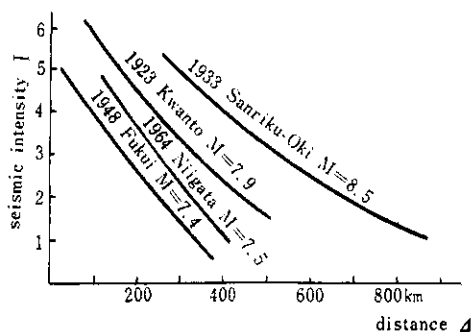


Fig. 1. Δ -I curves of large earthquakes¹⁾.

地域が飛び離れて存在しているほかは、変わったものは見られない。最大震度は6で山形県の鶴岡で観測されただけである。有感地域は北海道から近畿四国地方にまで広がっているが、震央から最も遠いのは徳島県剣山であった。墓石の転倒から推定される最大加速度について見ると、震央に近い四日市、西興屋、猿沢、脇川、鼠ヶ関、湯温海では400gal、瀬波で300gal、鶴岡、塩屋で250gal程度となっている。

Table 1. Seismometric data¹⁾

官署名	震度	震央距離	初発現時	大動						官署名	震度	震央距離	初発現時	大動						
				南北成分		東西成分		上下成分						南北成分		東西成分		上下成分		
				振幅	周期	振幅	周期	振幅	周期					振幅	周期	振幅	周期	振幅	周期	
		mm	秒	mm	秒	mm	秒			mm	秒	mm	秒	mm	秒	mm	秒			
新潟	5	51km	13時01分50.7秒							舞鶴	466	46.9			1	8	1.1	11	1.1	6
酒田	5	83	54.8							京都	482	48.4			1.9	5	1.9	8	1.5	6
相川	5	91	55.6					25	4	丹波	501	49.4			3.9	10	2.6	11	3.6	10
山形	4	102	56.9	15	3	30	5	12	7	岡取	499	50.5			1	6	0.8	4	1	4
仙台	4	131	02分01.5秒	16	1	17	1	7.5	2	島	546	52.7			1.8	7	1	12	0.6	6
白河	5	150	03.8	18	5	23	8	8	2	奈良	506	52.9			4.4	6	1.8	6	1.7	7
秋田	4	165	05.9	31	6	25	6	8.3	3	浦河	522	53.0			3.5	6	3.7	6	2.6	12
高田	4	171	06.4	21	5	20	2	11	4	大野	525	54.9			12	5	15	5	2.8	4
石巻	4	181	06.8	34	2	30	3	6.9	4	札幌	542	56.0			2.1	6	2.3	7	1.2	6
水戸	4	185	09.1	16	7	11	7	7.9	6	札幌	553	56.5			2.4	13	2.7	10	1.7	14
長野	4	207	09.3							旭川	560	57.8			0.9	6	0.9	6	0.5	6
宇都宮	3	209	11.6	25	4	23	3	14	5	西	560	58.1			1.1	13	1.1	15	1	6
松代	3	209	11.8	18	6	21	6	8	6	尾	571	59.6			1.4	7	2.4	11	0.4	5
小浜	2	219	12.5	4.8	9	3.2	6	3	6	尾	546	03分01.3秒								
小浜	4	218	13.0	24	4	25	5	10	7	洲	588	01.9			2.9	8	1.5	5	0.8	7
前橋	4	217	13.6	15	5	23	5	11	5	八丈	585	03.0			6	7	6.8	6	2.2	4
盛岡	4	227	13.6	6.5	9	7.8	9	7.6	9	米	613	03.4			1	5	0.9	10	0.2	4
大船渡	3	234	14.4	6.9	5	6	8	6.1	9	米	611	04.7			2.3	4	3.2	4	4.4	8
輪島	4	228	14.4	14	5	12	5	4.5	4	和歌山	583	04.9			0.9	7	1	11	1.6	8
水戸	2	247	16.2	31	6	29	7	5.5	5	高	626	07.1			5.2	9	2.5	7	1.4	6
柿岡	4	252	16.3	11	8	10	6	6.8	8	高	642	07.3			5	7	4.5	7	7.5	5
磐井	3	230	16.6	19	5	17	5	6.7	4	高	631	08.4			0.4	3	0.3	2	0.1	3
富山	3	253	16.7	16	5	16	6			新	676	08.8			0.4	13	0.4	15	0.4	15
熊谷	3	245	16.8	24	5	38	6	18	6	旭	633	09.8			1.1	8	1.2	8	0.4	5
宮古	3	280	19.8	7	10	4.9	12	5	11	旭	659	10.0			0.5	4	0.4	4	0.2	3
松本	3	258	20.1	13	5	13	5	5	4	留	672	10.1			3.2	13	1.9	16	1.8	15
敦賀	3	262	20.3	5.9	4	9	5	6.2	4	刺	623	10.5			1.4	10	0.8	8	1.1	6
高金	1	298	23.6	4.6	8	4.1	6	3.9	6	岡	678	10.9			1.1	6	1.2	7	1.3	9
青森	2	301	24.2	10	5	10	5	4.7	4	室	725	19.5			2.9	10	4.0	11	0.9	4
東京	3	300	24.5	18	10	6.2	3	3.7	10	根	772	19.6			0.2	11	0.2	14	0.3	14
甲府	3	303	24.7	5	5	35	7	3.6	6	高	737	20.1			1	8	1.6	7	1.2	7
鉾田	2	327	25.2	7.6	7	8.2	7	4.7	8	浜	743	20.8			0.5	12	0.6	17	0.5	11
八戸	1	314	25.9	5.1	9	5.6	12	5.4	10	網	760	20.9			1.3	4	0.9	4	0.4	5
横濱	3	326	27.1	21	7	24	4	8.5	5	廣	750	21.5			1.3	13	1.1	11	0.8	6
飯田	2	338	29.3	5.8	6	4.1	5	3.2	5	松	764	23.5			0.5	8	0.6	9	0.9	9
岐阜	3	393	30.8	6.4	5	6	6	4	6	足	839	30.1			2.7	16	2.3	10	0.6	5
船津	2	319	31.6	5.7	5	5.8	5	3.9	5	雅	811	30.5			0.6	10	0.4	10		
福井	1	366	32.0	2.9	7	2.8	6	1.6	6	宇	826	31.5			1.6	6	0.9	11	0.5	7
三島	2	360	32.8	9	4	9	6	3	5	和	879	37.4			1.4	8	1	6	0.5	10
富山	1	385	33.6	22	6	14	7	5	6	島	888	43.5			4.4	7	3.2	7	1.1	5
網代	1	367	33.8	19	6	7.8	6	4	5	下	888	46.5			0.1	10	0.1	11	0.1	10
敦賀	1	407	35.5	2	6	1.9	8	1.2	5	福	954	48.8			0.9	7	0.8	11	1	11
名古屋	1	405	37.1	2.5	12	2.2	10	1.7	11	阿	934	52.6								
大島	1	399	38.0	11	5	6	7	4	6	蘇	934	54.4			1.4	6	0.7	5	0.5	5
静岡	1	381	39.4	3	6	6	5	3.3	5	延	983	55.5			1.6	5	0.8	10	0.2	6
御前	3	425	40.9	9.9	5	13	6	6	6	宮	1,000	58.3			1.3	7	2	13	0.3	13
浜松	1	425	42.-	6.7	4	8.5	5	2.5	5	熊	982	59.4								
彦根	1	431	42.6	3.1	5	3.8	11	1.4	7	飯	1,048	04分01.0秒			0.7	9	0.8	9	0.5	12
長津	1	411	43.8	4	6	8.7	6	2.3	5	佐	1,021	03.0								
宝塚	1	466	44.1	2.4	12	1.5	13	2.2	11	長	1,088	06.6			1.9	17	2	9	0.8	10
津	1	470	45.1	5.6	5	6	7	2.7	6	福	1,128	13.3			0.3	7	0.3	12	0.1	12
龜山	458	46.2	5.4	7	5.8	6	1.9	5	屋	1,185	22.1			0.2	15	0.3	18	0.2	13	

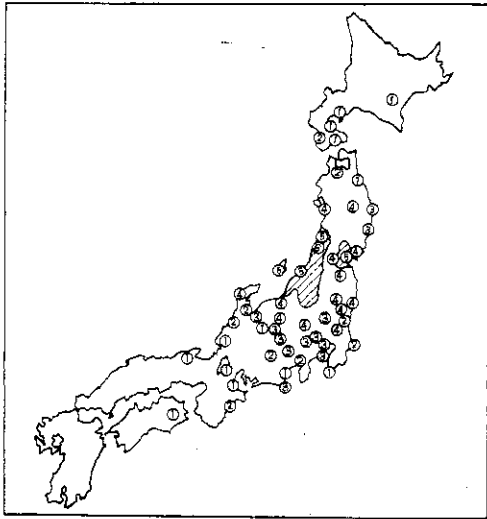


Fig.2. Distribution of seismic intensities due to the Niigata Earthquake. (Hatched area : indicating the belt districts of intensity scale 5).

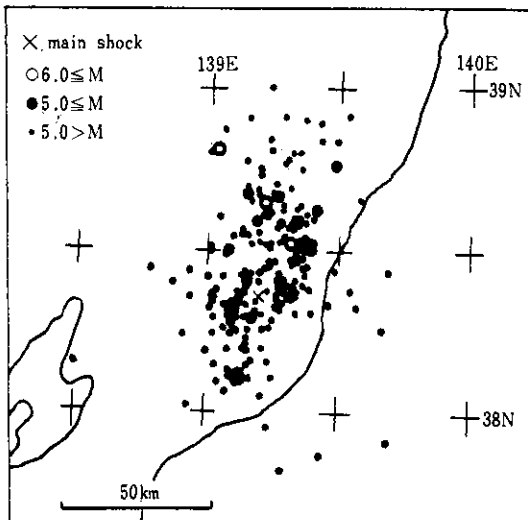


Fig.3. Distribution of aftershocks of the Niigata Earthquake 1).

初動発現時は、深さ40kmの和達・鷺坂・益田の走時曲線と比較すると、震央距離約50km前後までは観測値がよく一致している。

最大振幅については、震央に近いところで、振切れ、傾斜などのため、明らでないが、新潟の東西成分の50mmをこえているのが、今回の観測では最大であると考えられる。周期については福井地震などに比べると若干長いようである。

3. 余震

気象庁、地震研究所などの観測によると、図-3のごとく余震は、粟島を中心に、その周辺の海域に分布しているが、本土陸上にも起っている。余震の最大なものは、本震後4時間以内に同程度のもの(M=6.1)が3回起ったが、余震による被害はなかった。

余震の深さ別の回数では0km、20km、40km程度のものが同じように起っており、60kmのものも数回ある。

また余震のうち有感地震については、本震以後1ヵ月間に179回あり、これは福井・鳥取の大地震にくらべると回数は少い傾向があるが、規模の大きい余震については、そのようなことはない。また気象庁の余震臨時観測点の1つ、山北村役場で得られた資料によると、短期間ではあるが、記録振幅と地震数の関係を示す石本・飯田の式、 $NA^m = K$ (一定)の係数 m は1.95となり、自然地震の通常値 $m=1.9$ に近い値となっている。

4. 地殻変動

地震後国土地理院、海上保安庁水路部、地震研究所などで行われた調査によると、粟島を含めた海域にかなり変動があった。海上における値は、陸上にくらべ精度においておとるが、粟島と本州との間の海域において最大6mもの隆起地域があったといわれている。

一般に粟島と本州との中間よりやや粟島よりに隆起の大きい地域がある。

粟島および本州における隆起・沈降は図-4のようになっている。

8. 津波

検潮記録による資料を表-2にしめす。

これを見ると、新潟県松ヶ崎では地震後16分で第一波が到達している。全般に第1波は概して静かな押し波で始まり、第1波の観測から、浪源域は、新潟県北部から山形県南部にかけての海岸に平行な長さ80~90kmの陸棚と推定される。本震の震央は浪源域の南寄りであり、粟島は浪源域内に含まれる。

また現地調査から得られた資料では、今回の津波の最

Table 3. Damage caused by the Niigata Earthquake.

区分	県別	単位	合計	新潟	山形	秋田	宮城	福島	群馬	長野	鳥取	石川
死者	人	26	13	9	4							
負傷者	人	447	315	91	25	1	12	1	2			
建物全壊	棟	1,960	1,448	486	18		8					
建物半壊	棟	6,640	5,376	1,186	65		6		4			
建物全焼	棟	290	290									
建物半焼	棟	1	1									
床上浸水	戸	9,474	9,446	16	9							3
床下浸水	戸	5,823	5,544	23	142							113
一部破損	戸	67,825	19,472	42,077	6,116	13	83	1	25	38		
非住家被害	戸	16,283	10,556	1,772	3,859		86	5	5			
水田流失埋没	ha	4,458	3,624	787	47							
水田冠水	戸	2,263	2,111	42	25						10	75
細流流失埋没	戸	392	392									
細流冠水	戸	476	476									
道路被害	所	1,007	759	185	47		15	1				
橋被害	所	78	67	4	7							
堤防決壊	所	63	56	6	1							
山(がけ)くずれ	所	168	111	35	1	3	17	1				
鉄軌道被害	所	130	86	22	10	5	5	1	1			
通信施設被害	所	24,113	23,114	458	512	25	1	3				
木材流失	m ³	8,530	8,530									
船舶被害	隻	246	234	4	8							
被災世帯数	戸	17,964	16,357	1,565	88							
被災者概数	人	86,401	78,566	7,331	425							

(警察庁昭和39年11月12日調)

変位をうけて損壊したものである。これらは基礎構造にその原因があったのであるが、とくに前者についてはきわめて特異な被害であった。

そのほか臨港工業地帯における産業施設被害および下水道、ガス、電力通信線など地下埋設物の被害の大きかったことも一つの特色であった。

参 考 文 献

- 1) 気象庁：昭和39年6月16日新潟地震調査報告。気象庁技術報告，第43号，昭和40年5月。
- 2) 茂木清夫：東京大学地震研究所，新潟地震概報 p. 46~51，昭和39年。
- 3) 中村一明，笠原慶一，松田時彦：東京大学地震研究所，新潟地震概報，p. 73~90，昭和39年。